

北見市における景気動向調査報告書

< 第 I 四半期 >

北見商工会議所

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1) 調査時点 平成28年7月2日

(2) 調査対象期間 平成28年4月～6月期実績および平成28年7月～9月期見通しについて調査した。

2. 調査対象

北見市に所在する企業を対象に、製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の5業種150社を往復ハガキにより調査した。

3. 回収状況

業種	企業数	対象企業数	回答企業数	回答率
製造業		30社	25社	83.3%
建設業		30社	23社	76.6%
卸売業		30社	25社	83.3%
小売業		35社	26社	74.2%
サービス業		25社	16社	64.0%
合計		150社	115社	76.6%

注) 本調査結果の中で、D・I値とある記号は、デフュージョン・インデックス(景気動向指数)で
好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

Ⅱ．概 況

《 全 体 の 動 き 》

平成28年度第I四半期<4月～6月>の北見市における業況は、前年比で「好転企業」23.5%、「悪化企業」30.4%、「好転」から「悪化」を差し引いたD・I値は△6.9となっています。このD・I値を、前年同期（△18.8）と比較してみると11.9ポイントの好転傾向を示しています。

今回の業況を業種別で見ると、製造業D・I値12.0、建設業D・I値△21.8、卸売業D・I値△12.0、小売業D・I値△11.5、サービス業D・I値0となっており、前年同期調査と比較すると、製造業で33.7ポイント、小売業で30.0ポイント、サービス業で29.5ポイントの改善傾向が見られる一方、建設業が18.1ポイント、卸売業が8.2ポイント悪化となり、業種間で大きく分かれる結果となりました。

また、前期調査<27年度第IV四半期>との比較では、前回0→今回△6.9と6.9ポイントの悪化傾向を示しました。

さらに、来期の見通しを全業種で見ると「好転企業」13.1%「悪化企業」30.4%でD・I値△17.3と、前年同期見通し（△16.4）に比べ0.9ポイント悪化となり、依然予断を許さない来期見通しとなっています。

《 業 種 別 の 動 き 》

1) 製造業 生産高 前年比で「増加企業」32.0%、「減少企業」28.0%、D・I値4.0と前年同期に比べ25.8ポイントの好転となりました。

採 算 前年比で「好転企業」20.0%、「悪化企業」36.0%、D・I値△16.0と、前年同期に比べ10.0ポイントの好転を示しました。

来期見通し 業況D・I値△24.0、生産高D・I値△16.0、資金繰りD・I値△20.0と、前年同期と比べ全てで若干悪化傾向を示す結果となりました。

2) 建設業 完成工事高 前年比で「増加企業」17.4%、「減少企業」43.5%、D・I値△26.1と、前年同期と比べ11.3ポイントの悪化となりました。

採 算 前年比で「好転企業」17.4%、「悪化企業」30.4%、D・I値△13.0と、前年同期に比べ1.9ポイントの悪化を示しています。

来期見通し 業況D・I値△21.8、完成工事高D・I値△26.1、資金繰りD・I値△17.3と前年同期に比べ業況と完成工事高はほぼ横ばい、資金繰りは悪化傾向を示す結果となりました。

3) 卸売業

売上高 前年比で「増加企業」32.0%、「減少企業」36.0%、D・I値△4.0と、前年同期と比べ7.9ポイントの悪化となりました。

採算 前期比で「好転企業」20.0%、「悪化企業」36.0%、D・I値△16.0と前年同期に比べ19.9ポイントと大幅な悪化となりました。

来期見通し 業況D・I値△12.0、売上高D・I値△12.0、資金繰りD・I値△4.0と、前年同期と比べ全てで横ばいを示す結果となりました。

4) 小売業

売上高 前年比で「増加企業」19.2%「減少企業」34.6%、D・I値△15.4と、前年同期に比べ22.1ポイントの大幅な好転となりました。

採算 前年比で「好転企業」23.0%「悪化企業」30.8%、D・I値△7.8と、前年同期に比べ26.9ポイントの大幅な好転となりました。

来期見通し 業況D・I値△11.6、売上高D・I値△15.4、資金繰りD・I値△11.6と、前年同期と比べ全てで若干好転傾向を示す結果となりました。

5) サービス業

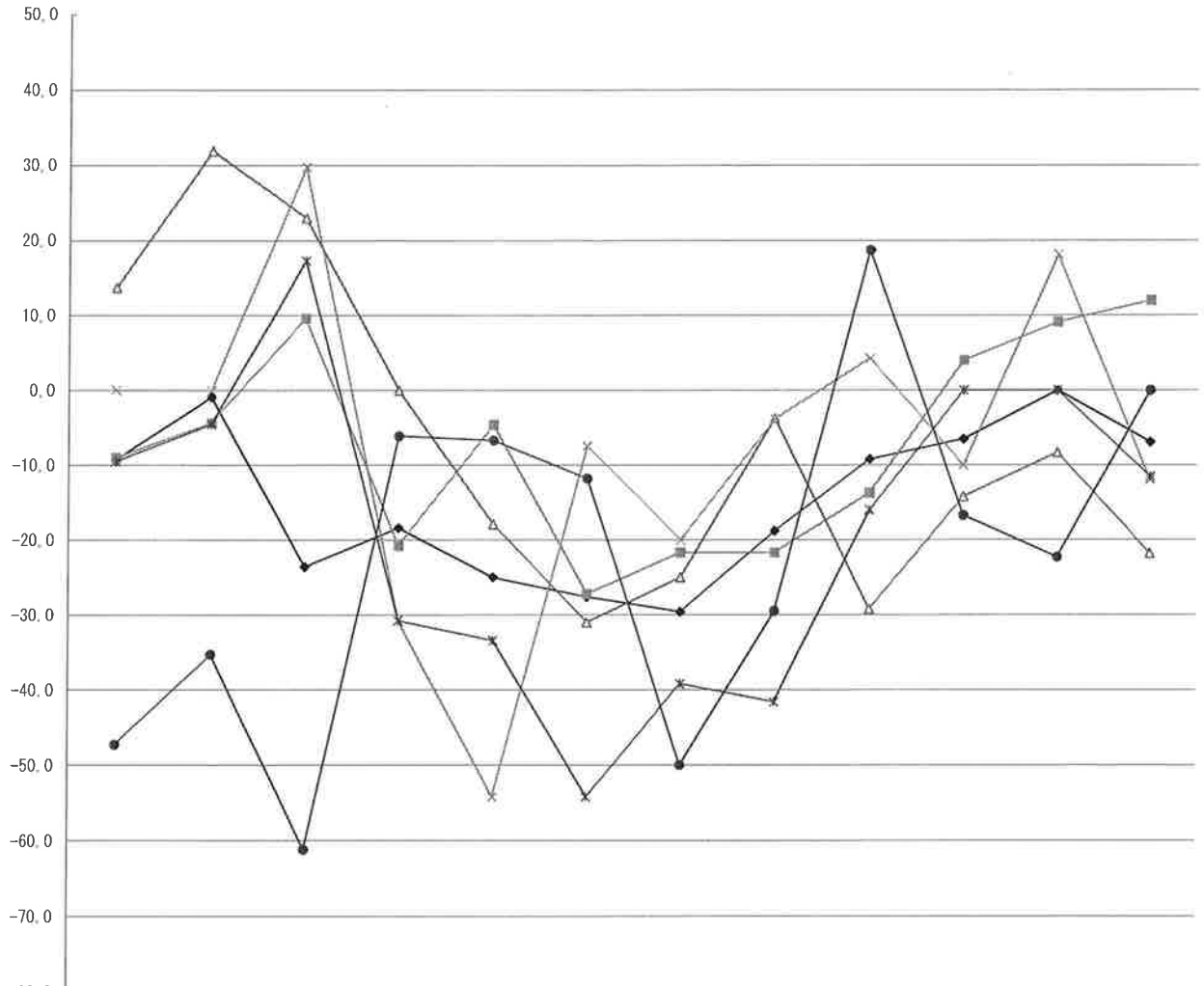
売上高 前年比で「増加企業」18.7%、「減少企業」31.3%、D・I値△12.6と、前年同期に比べ5.0ポイントの好転を示しました。

採算 前年比で「好転企業」6.2%、「悪化企業」18.8%、D・I値△12.6と、前年同期に比べ28.7ポイントの大幅な好転を示しました。

来期見通し 業況D・I値△18.8、売上高D・I値△18.8、資金繰りD・I値△12.5と、前年同期に比べ、全てにおいて若干悪化傾向示す結果となりました。

業況（前年同期比）

◆ 全業種
■ 製造業
△ 建設業
× 卸売業
* 小売業
● サービス業



	25.7~9 25年度Ⅱ	25.10~12 25年度Ⅲ	26.1~3 25年度Ⅳ	26.4~6 26年度Ⅰ	26.7~9 26年度Ⅱ	26.10~12 26年度Ⅲ	27.1~3 26年度Ⅳ	27.4~6 27年度Ⅰ	27.7~9 27年度Ⅱ	27.10~12 27年度Ⅲ	28.1~3 27年度Ⅳ	28.4~6 28年度Ⅰ
◆ 全業種	-9.3	-0.9	-23.6	-18.4	-25.0	-27.6	-29.6	-18.8	-9.2	-6.5	0.0	-6.9
■ 製造業	-9.0	-4.3	9.6	-20.8	-4.6	-27.2	-21.7	-21.7	-13.7	4.0	9.1	12.0
△ 建設業	13.7	31.9	23.0	0.0	-17.9	-31.0	-25.0	-3.7	-29.2	-14.2	-8.3	-21.8
× 卸売業	0.0	0.0	29.7	-30.8	-54.2	-7.4	-20.0	-3.8	4.3	-10.0	18.1	-12.0
* 小売業	-9.5	-4.5	17.3	-30.8	-33.4	-54.2	-39.2	-41.6	-16.0	0.0	0.0	-11.5
● サービス業	-47.3	-35.3	-61.2	-6.1	-6.7	-11.8	-50.0	-29.5	18.7	-16.7	-22.3	0.0

業 種 別 経 営 上 の 問 題 点

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
製 造 業	諸 経 費 増	得 意 先 減 少	人 材 不 足	人 件 費 増	同業者間の競合
建 設 業	人 材 不 足	諸 経 費 増	同業者間の競合	人 件 費 増	得 意 先 減 少
卸 売 業	同業者間の競合	人 材 不 足	得 意 先 減 少	諸 経 費 増	人 件 費 増
小 売 業	得 意 先 減 少	同業者間の競合	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増
サービス業	諸 経 費 増	人 件 費 増	人 材 不 足	同業者間の競合	得 意 先 減 少
合 計	諸 経 費 増	人 材 不 足	得 意 先 減 少	同業者間の競合	人 件 費 増

※ 問題点は、各業種とも3つ選択。

○ 前年同期と比較すると、1位から5位まで順位に変動がみられなかったことから、地域の課題が慢性化していることが伺える。

業種別で見ると、建設業で前年3位だった「諸経費増」が2位となり、前年2位だった「得意先減少」5位となる変化がみられる。また卸売業では前年の1位と2位が入れ替わっており、「同業種間の競合」が激化してきていることが見受けられる。その他の業種では上位に変動がないため、業種間での課題が長期化しているものと伺える。

※その他及び具体的な問題点の記載事項 (※は複数事業者が回答)

(建設) ○職員・職人の高齢化 (土木・建築) ※

(卸売) ○売掛金回収の長期化 (種苗・肥料・農薬農業資材)

業 況

(太字アンダーラインは複数事業所が回答)

製造業 ⇒ 好転 (農業用機械、建設用金属製品、農産物加工、製麺類製造販売、菓子、一般機械)
悪化 (印刷、鋳物製品製造製材、石灰製品)

建設業 ⇒ 好転 (内線工事)
悪化 (土木・建築、管・土木、土木・とび土工、板金、一般土木・給排水・衛生・暖冷房)

卸売業 ⇒ 好転 (作業服、家電、鋼材、一般菓子・一般玩具、事務機器・事務用品)
悪化 (建築資材、製菓原材料機器、食品、化粧品、自動車部品、医療・介護福祉機器
石油製品、建築金物)

小売業 ⇒ 好転（自動車、メガネ販売、家具、火薬・銃砲、食料品他雑貨等小売業）
悪化（衣料品、米、酒類、青果、時計・貴金属、生鮮食品）

サービス業 ⇒ 好転（そば、飲食）
悪化（クリーニング、理容）